

Title	「要請」とは何か : 新型コロナウイルス感染拡大時の使用例を中心に
Author(s)	
Citation	令和2(2020)年度学部学生による自主研究奨励事業 研究成果報告書
Issue Date	2021-04
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/80626">https://hdl.handle.net/11094/80626</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 令和2年度大阪大学未来基金「学部学生による自主研究奨励事業」研究成果報告書

ふりがな 氏名	たなかほのか 田中穂乃香	学部 学科	文学部人文学科	学年	3年
ふりがな 共同 研究者氏名		学部 学科		学年	年
					年
					年
アドバイザー教員 氏名	渋谷勝己	所属	文学部		
研究課題名	「要請」とは何かー新型コロナウイルス感染拡大時の使用例を中心にー				
研究成果の概要	研究目的、研究計画、研究方法、研究経過、研究成果等について記述すること。必要に応じて用紙を追加してもよい。(先行する研究を引用する場合は、「阪大生のためのアカデミックライティング入門」に従い、盗作剽窃にならないように引用部分を明示し文末に参考文献リストをつけること。)				
<p><b>1. 研究目的と研究方法</b></p> <p>本研究課題では、新聞での使用実例などをもとに、「要請」という言葉の語義・性質・用法を明らかにすることを目指す。</p> <p>2020年2月末ごろから日本国内で新型コロナウイルスへの感染が拡大し、国や自治体が相次いで「自粛要請」「休業要請」をした。筆者は日々報道を見る中で、「要請」の強制度に疑問を持った。例えば、「休校要請」に全国の多くの学校が従い、「外出自粛要請」に多くの国民が従った。しかし、「要請」は命令ではなく、従わなくても罰則はない。新聞で「要請」がどう使用されたかや人々が「要請」という言葉に抱くイメージを調査し、辞書には記載されていない「要請」の性質や語義・用法の解明を試みた。</p> <p><b>2. 研究経過</b></p> <p>〈ステップ1〉</p> <p>(a) 複数の国語辞書で「要請」の語義を探る。</p> <p>(b) 英和辞書などで外国語では「要請」をどう表現するのか探る。</p> <p>(c) 2020年1～8月の新型コロナウイルスをめぐる政府・自治体の対応を整理する。</p> <p>〈ステップ2〉</p> <p>(d) 2020年1～8月の毎日新聞東京朝刊の全記事から「要請」という単語を使用した記事を抽出し、用法を調査する。</p> <p>〈ステップ3〉</p> <p>(e) 携帯電話の位置情報サービスを使用した「街の人出」のデータを参照し、「要請」に対する人々の行動変容を探る。</p> <p>(f) ウェブアンケートで、「要請」という言葉に人々が抱くイメージを調査する。</p>					

### 3. 研究成果

本報告では、研究成果の一部をまとめる。「(a)」等の項目記号は「2. 研究経過」と対応。

#### (a) 「要請」の辞書上の語義

小中学生向けから一般向けまで、計 17 の辞書を調査したところ、以下のようなキーワードが使用されていた。(カッコ内は当該キーワードを掲載する辞書の数)

願う・願い出る (14)、求める (13)、必要な事柄を・必要なこととして・必要だから (9)、強く (7)、こうして・そうしてほしい (6)、頼む (5)、実現のために・実現するように (2)、正式に (1)、請う (1)

以上から、辞書上の「要請」の意味をまとめると、「必要な事柄の実現のために、こうしてほしいと強く願い出て求めること。(正式に) 頼むこと。」となる。

ただ、辞書上の意味では、以下のような疑問が生じる。

①「願い出る」「頼む」という単語には、「立場が下の者が上の者に」するものというイメージがあるが、新型コロナウイルスをめぐって出された「要請」は政府・自治体（上の立場）から国民・事業者・学校（下の立場）になされたものである。「要請」という言葉を使用するとき、要請する人・される人の関係性はどうなっているのか。

②「要請」の強制度はどの程度なのか。

以上2つの疑問点に注目して分析を進める。

#### (c) 新型コロナウイルスの対応をめぐる動き

NHK 新型コロナウイルス特設サイトを基に 2020 年 1～8 月の新型コロナウイルスをめぐる主な動きをまとめると、以下ようになる。

1 月	日本国内での初の感染事例 WHO「国際的な緊急事態」宣言
2 月	乗客の感染が確認されたクルーズ船横浜港に入港 安倍首相 全国の小中高校に臨時休校要請の考え公表
3 月	東京五輪・パラリンピック 1 年延期 志村けんさん新型コロナ肺炎で死去
4 月	緊急事態宣言
5 月	緊急事態宣言解除
6 月	初の「東京アラート」
7 月	Go To キャンペーン始まる 東京都 366 人感染確認 過去最多

1～8 月に出された主な要請は以下 5 つであった。①全国一斉休校、②休業、③外出自粛、④大規模イベントの自粛、⑤都道府県をこえる移動の自粛。人々がこれらの要請に対してどう行動したのかも含め分析を進める。

#### (d) 新聞での「要請」の使用実態

毎日新聞縮刷版 1～8 月号と毎日新聞記事の検索できる「毎索」を使用し、毎日新聞での「要請」という単語の使用の実態を分析した。使用数の変遷の他、以下 2 点に注目して分析した。

①「要請」という言葉を使用するとき、要請する人・される人の関係性はどうなっているのか。

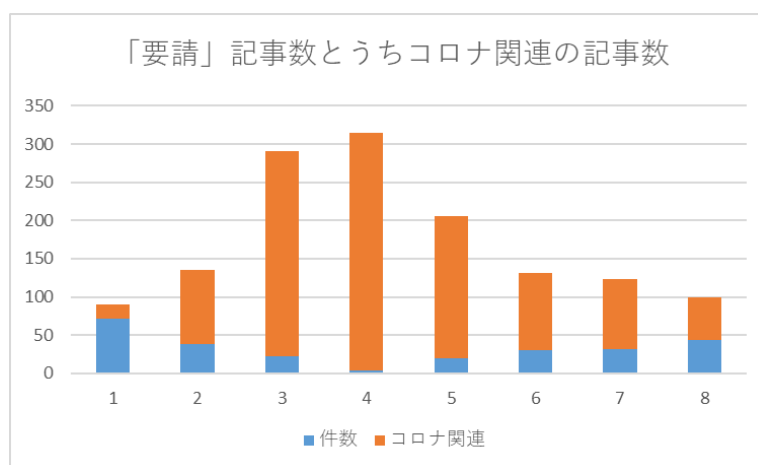
立場の上下はあるのか。

- ②「要請」の強制度はどの程度なのか（「要請」を受けた人がそれに従っているか、従う意思があるか、従うという前提で記事が書かれているか）。

(d) -1 使用例数の変遷

「要請」という単語が登場する記事数を調べたところ、1～8月で「要請」という単語が使用された記事は1387本（記事数）あり、うち新型コロナウイルス関連での使用は1125例だった。使用例の内訳は社会面（320）、内政面（219）、政治面（160）、総合面（149）、2面（131）、国際面（106）、経済面（102）、3面（78）、運動面（67）、特集面（20）、家庭面（14）、解説面（11）、読書面（5）、文化面（2）、科学面（2）、芸能面（1）である。また、表1は月ごとの記事の数および新型コロナウイルス関連の記事の数である。

表1 「要請」を使用した記事数とそのうちコロナ関連の記事数



(d) -2 使用実態

今回は、法に基づかず、従わなくても罰則や指示が与えられない「要請」の実態を調査するため、新型インフルエンザ等対策特別措置法による緊急事態宣言に基づいて「要請」が出されていた4・5月を除き、1～3月、6～8月で「要請」が使用された記事を調査した。1～3月、6～8月で「要請」が使用された記事は868本（記事数）。複数回「要請」が使用されていた記事もあったため、合計1477の使用例があった。本項冒頭に記載した①②の指標に基づいて1～3月、6～8月の記事を分析した結果、以下のような実態が明らかになった。

表2 要請した人とされた人の立場の上下

①「要請した人からされた人へ」	1月	2月	3月	6月	7月	8月	計
立場の違い							
立場の上下が判別できない	27	33	72	32	71	31	266
上から下へ	30	133	363	150	108	80	864
上から下へ？	2	20	58	19	15	15	129
下から上へ	10	17	39	11	11	14	102
下から上へ？	2	3	6	9	8	2	30
対等	27	12	3	6	3	8	59
対等？	12	2	3	0	2	8	27

表 3 要請に応じたのか

②「要請」に応じたのか	1月	2月	3月	6月	7月	8月	計
応じた（応じる）	30	41	129	79	45	60	384
応じた（応じる）と思われる	10	4	14	1	1	1	31
応じない（応じなかった）	12	16	23	10	17	15	93
応じない（応じなかった）と思われる	1	0	6	0	0	0	7
応じた場合と応じなかった場合がある	2	2	4	0	1	2	11
応じていたがのちに応じなくなった	0	3	0	1	0	0	4
応じなかったがのちに応じた	0	0	0	0	1	0	1
記事からは分からない	55	154	368	136	153	80	946

表 2 の補足をする。要請した人が誰なのか記事から読み取れなかったものが 144 例、要請された人が誰なのか読み取れなかったのが 202 例あったため、立場の上下の判別ができないものが 266 例見られた。また、要請した人の立場が「上から下へ」の例としては、都道府県知事から事業者へ休業を要請、首相から学校へ休校を要請などがあった。「下から上へ」の例としては、東京都知事から首相に財政支援を要請、事業者から政府に規制緩和を要請などがあった。「対等」の例としては、日本政府から外国政府へ犯罪捜査協力の要請などがあった。

表 2 から分かるのは、「要請」は立場が上の人から下の人に使われるものである場合が多いということである。表 3 から分かるのは、記事には「要請」に応じたかどうかまでは書かれておらず、「要請した」という事実に着目が置かれている場合が多いことである。また、「要請」に応じたか応じていないかで比べると応じる場合が多いということも分かった。

ちなみに「要請」が使われた記事中で「要請」をどう言い換えていたかに注目すると、「求める」「要求」「要望」「強くお勧め」「～するよう呼びかける」「お願いする」「～してほしい」などだった。いずれも強制度はさほど高くない言い換え表現である。「要請」は「命令」「指示」とは別物であることを暗に示している内容の記事も見られた。

#### (d) 人々が「要請」に抱くイメージ

2020 年 10 月 19 日～12 月 28 日にかけて、10 代～60 代（10 代 5 人、20 代 38 人、40 代 1 人、50 代 3 人、60 代 1 人）の計 48 人にウェブアンケートをとり、「要請」という単語に抱くイメージを調査した。アンケートの詳細は割愛するが、以下のような結果が出た。

「新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、東京都が飲食店などに営業時間の短縮の要請を決めた」の「要請」に意味が最も近いと思う言葉を以下から一つ選んでください。

1. 命令 2. 指示 3. 強要 4. 警告 5. 依頼

1～5 にあてはまるものがない場合、ご自身が考える「要請」の意味をご記述ください。

●命令（0）

●指示（26）

●強要（4）

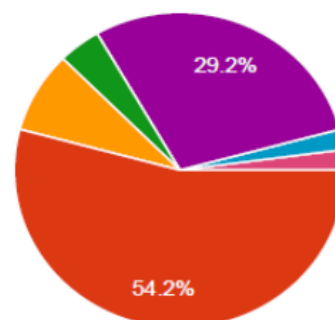
●警告（2）

●依頼（14）

その他

●依頼と指示の中間くらいのイメージ（1）

●当初は「お願い」だと思っていたが、実質的には「指示」だと後で気づいた（1）



今回のアンケートには10代、20代が多く回答したため、より大規模な調査が必要だが、「要請」を「指示」に近い意味だと捉えている人が最も多く、依頼、強要、警告と続いた。命令と答えた人はいなかった。また、「依頼と指示の間」「実質的には指示」という回答も見られた。よって本アンケート調査に回答した人の中では「要請」という単語は以下のようにとらえられていることが分かる。

- ①「上位の者が下位の者に対してあることをするように言いつける」ことを意味する「命令」ほど強制度は高くない。
- ②人に指図することを意味する「指示」に近い意味で捉えている人が半数を占める。
- ③3人に1人程度は、「依頼（頼む）」に近い意味で捉えている。
- ④「強要（無理に要求する）」「警告（良くない事態が起きないように事前に注意を促す）」の意味で捉えている人も見られた。

#### 4. まとめ

新型コロナウイルスをめぐって度々使用される「要請」という言葉について分析した。その結果、以下のようなことが分かった。

- ①複数の辞書を参照してまとめた辞書上の「要請」の意味は、「必要な事柄の実現のために、こうしてほしいと強く願い出て求めること。（正式に）頼むこと。」である。
- ②新聞報道では、「要請」は立場が上の人から下の人に使われるものである場合が多い。
- ③新聞報道には「要請」に応じたかまでは書かれておらず、「要請した」という事実に関心が置かれている場合が多い。また、「要請」に応じたか応じていないかで比べると応じる場合が多い。
- ④「要請」の言い換え表現として新聞記事で用いられていたのは、「求める」「要求」「要望」「強くお勧め」「～するよう呼びかける」「お願いする」「～してほしい」などだった。
- ⑤アンケートでは、「要請」は「指示」に近いと感じている人が最も多かった。

#### 5. 考察

新聞報道で「要請」をしたという事実に関心が置かれるのは、要請されたら従うことが日本ではおおよそ自明だからではないかと考える。「要請」を出すことで個々人の倫理観に訴えかけ、従わない者に対しては社会的圧力がかかる。コロナ禍では「お願いベース」の要請が出されたが、市民の中から自発的に要請に従わない者を非難する「自粛警察」が登場した。

辞書上の意味だけでは、「要請」が社会にどのような影響を与えるか分からなかったが、新聞記事やアンケートから、コロナ禍において「要請」は「指示」に最も意味が近い「強制度の比較的高いお願い」であり、「要請」に従わないことは社会的にあまり想定されていないのではないかとということが解釈できる。

#### 6. 参考文献

- 小野正弘他編（2019）『現代新国語辞典第六版』,三省堂  
北原保雄編（2020）『明鏡国語辞典第三版』,大修館書店  
金田一京助編（2009）『例解学習国語辞典第八版』,小学館  
金田一春彦・金田一秀穂編（2017）『学研現代新国語辞典改訂第六版』,学習研究社  
金田一春彦,金田一秀穂監修（2001）『新レインボー小学国語辞典 改訂新版』,学習研究社  
見坊豪紀他編（2013）『三省堂国語辞典第七版』,三省堂

田近洵一編（2001）『例解小学国語辞典』,三省堂  
篠崎晃一他編著（2019）『例解新国語辞典第九版 シロクマ版』,三省堂  
新村出編（2008）『広辞苑第六版』,岩波書店  
中道真木男編（2012）『ベネッセ新修国語辞典第二版』,ベネッセコーポレーション  
西尾実他編（2019）『岩波国語辞典第八版』,岩波書店  
日本国語大辞典刊行会（1976）『日本国語大辞典』 小学館  
林史典他編（2018）『現代標準国語辞典改訂第4版』,学習研究社  
森山卓郎監修（2020）『標準国語辞典第八版』,旺文社  
山田忠雄他編（2020）『新明解国語辞典第八版』,三省堂  
毎日新聞縮刷版  
NHK 新型コロナウイルス特設サイト (<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/>) など